

該当箇所	誤	正
3章		
p.237 図 3.82 左図中	8.0%	8.9%
右図中	2000年価格	2006年価格
13章		
p.748 図 13.25 の出典	[日本塑性加工学会 編, “接合”, p.10, コロナ社 (1996)]	[“図解科学技術辞典”, p.7, 弘文堂 (1977)]
p.749 図 13.26 の出典	[日本塑性加工学会 編, “粉末の成形と加工”, p.10, コロナ社 (1994)]	[日本鉄鋼協会編, “鉄鋼便覧 第3版, V”, p.477, 丸善出版 (1982)]
p.749 図 13.27 の出典	[日本塑性加工学会 編, “粉末の成形と加工”, p.15, コロナ社 (1994)]	[藤川隆男, 塑性と加工, 29 , 335 (1988)]
p.750 表 13.6 の出典	[日本塑性加工学会 編, “材料”, p.135, コロナ社 (1994)]	[神戸徳蔵, “最新無電解めっき技術”, p.11, 総合技術センター (1986)]
p.751 図 13.31 の出典	[日本塑性加工学会 編, “材料”, p.140, コロナ社 (1994)]	[西原 寛, “第106回西山記念講座 表面処理鋼板の現状と今後の動向”, p.235, 日本鉄鋼協会 (1985)]
p.752 図 13.33 の出典	[日本塑性加工学会 編, “材料”, p.132, コロナ社 (1994)]	[石川量大, 防食技術, 26 , 313 (1977)]
p.754 表 13.10 の出典	[日本塑性加工学会 編, “材料”, p.148, コロナ社 (1994)]	[黄燕清, プレーティングとコーティング, 1 , 94 (1981)]
15章		
p.857 右段 下から8番目	南 安則	南 安規
p.918 右段 上から10行目		
p.935 右段 下から14行目	カルナバろう	カルナウバろう
p.995 表 15.68 “過酸化物”の“代表的な例”中	ジ(<i>t</i> -ブチルペルオキシイソプロピル)ベンゼン	1,3-ビス[(<i>t</i> -ブチルペルオキシ)イソプロピル]ベンゼン
16章		
p.1065 図 16.104		
“セファロスポリン C”の R ₁ の置換基中	NO ₂ C-	HO ₂ C-
“セフロキシムアキセチル”の R ₃ の置換基中	-CONH ₃	-CONH ₂
“セフカペンピボキシル”の R ₃ の置換基中	-CONH ₃	-CONH ₂
p.1066 図 16.108 “アズトレオナム”の構造式	>-SO ₃ H	>N-SO ₃ H (四員環の右下は N)
p.1066 図 16.109 “ストレプトマイシン”の構造式	左斜め下の OH 基が六員環の上に位置している	左斜め下の OH 基は六員環の下に位置する
p.1069 図 16.120	F が 6 位にある	F は 5 位に結合する
20章		
p.1302 図 20.11	左の“発振層”	記録磁極

22章		
p.1359 図 22.33 のキャプション	in-plan 方式の概念図	in-plane 方式の概念図
25章		
p.1486 図 25.40 の出典	[(a) : K.Mizushima, et al., Mater. Ros. Bull, 15 , 783 (1980) , Fig.3 ; (c) : J. M. Tarascon, M. Armand, Nature, 414 , 359 (2001) , Fig.7]	[(a) : K.Mizushima, <i>et al.</i> , <i>Mater. Ros. Bull</i> , 15 , 786 (1980) , Fig.3 ; (c) : J. M. Tarascon, M. Armand, <i>Nature</i> , 414 , 363 (2001) , Fig.7]
28章		
p.1641 図 28.32	右の“模張力の変化”	膜張力の変化